

令和6年度串間市農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、宮崎県の南部に位置し、水田は耕地面積の2,940haのうち1,490haと約5割を占める重要な生産基盤となっており、早期水稻を基幹に露地野菜、施設園芸、果樹、肉用牛等の複合経営が行われている。

近年の農業を取り巻く環境が厳しさを増す中、本市の基幹産業である農業の維持及び発展のため、農業従事者の高齢化や担い手、農業後継者の減少、農地においては耕作放棄地や鳥獣被害等における耕作不利地の遊休化、燃料・飼料高騰対策等が喫緊の課題となっている。

2 高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

当該地域は、温暖な気候を生かし、施設ピーマン・キュウリ、マンゴー、かんしょ、ゴボウ等の多彩な農作物の栽培が行われている。これらについては、地域の主要な農作物であり、今後も地域農業の転作作物等として生産性の高い水田営農の推進を図る。また、各関係機関・団体と連携し更なる収益力の強化を目指すとともに、地域の担い手や集落営農組織を中心に農地中間管理事業やほ場整備事業等の取組を強化し農地の集積の促進による生産性の向上を目指す。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

水田における畑作物のみの生産が続いている地域においては、地域担い手の意向がある場合は、将来の作付計画について話し合い、地域の実情に応じた作物の導入や畑地化も含めた今後の水田の利用状況・方針等を検討し、畑地化促進事業等を活用した収益力の向上を目指すとともに、地域におけるブロックローテーションの構築を図り、作業の効率化や収益性の向上を目指す。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

主食用米は、需要に応じた生産を基本としつつ、作付の推進を図るとともに、需要に即した商品価値の高い売れる米づくりを推進する必要があると考えており、消費者ニーズに合わせてうまい米づくりを推進するため、気象条件にあった品種の選定や、更なるコスト削減に向けた技術の普及を推進する。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

主食用米の需要減が見込まれる中、転作作物の一つとして、飼料用米を位置づけ生産の拡大を図る。生産拡大については産地交付金を活用し、直播栽培や多収品種導入の取組を支援しながら、現行(R4)の作付面積である24.7haからR6年度には26.0haへ拡大を図る。

イ 米粉用米

ウ WCS 用稲

畜産農家を中心に自給粗飼料の確保の観点から、作付面積が年々増加傾向にある中で、今後も生産性の高い畜産経営を推進するため、現行の作付面積を維持するとともに、質の高い飼料生産を推進するため、地域の栽培歴に即した適正管理の推進に努める。

エ 加工用米

本市における水田の効率的活用と生産性の高い水田農業の確立に向けて、「需要のある米」と位置づけ、県内の実需者への出荷における生産段階の支援として、産地交付金における宮崎県設定の支援を活用し、地域段階においても産地交付金の活用による更なる生産性向上の取組への支援を行い、現行（R4）の作付面積である 68.0ha から R6 年度には 70.0ha を目標に農業所得の増加及び加工用米生産の拡大を図る。

（３）飼料作物

飼料作物については、今後も当該地域における基幹作物として位置づけ、畜産農家を中心に土地の利用集積や基幹作業受託の推進を図るとともに、耕畜連携のもと飼料の生産供給だけではなく堆肥を利用した資源循環型農業の推進を図り、現行（R4）の作付面積である 615.5ha から R6 年度には 700.0ha へ拡大を図る。

（４）そば

そばは、水稻後の二毛作としての栽培が定着しているが、水田の高度利用の観点から、産地交付金を活用しながら生産性向上の取組として排水対策を実施するとともに今後も作付の推進を図り、現行（R4）の 2.5ha から R6 年度には 5.0ha へ拡大を図る。

（５）地力増進作物

地力増進作物については、地域の露地野菜の主要な農作物として、食用甘藷やオクラ、スイートコーン、ゴボウ等があり、今後も地域農業の転作作物等として推進するため、産地交付金の活用も検討し、農業生産基盤の維持向上を図るとともに生産性の高い水田営農を目指す。

対象作物は、次のとおりとする。

カラシナ、アウエナストリゴサ、エンバク、ライムギ、ライコムギ、ヘアリーベッチ、ペルシアンクローバ、クリムソクローバ、レンゲ、イタリアンライグラス、アニュアルライグラス、セスバニア、ヒエ、スーダングラス、ソルガム、パールミレット、クロタリヤ、ギニアグラス、ヒマワリ、ハゼリソウ、シロガラシ、オオムギ、オオナギナタガヤ、テフグラス、バヒアグラス、トールフェスク、ケンタッキーブルーグラス、シロクローバ、マリーゴールド、クリーピングベントグラス、ダイカンドラ

（６）高収益作物

施設野菜については、本地域の冬期における温暖な気象条件を活用してピーマン・キュウリ等を栽培している。輸入野菜の増加や消費者志向の変化及び価格の低迷が続いている状況の中で「安全で高品質」な野菜生産を行うため、減農薬・減化学肥料栽培に取り組むとともに肥培管理の徹底を推進し、銘柄産地の育成を行う。

露地野菜については、水田を中心に多作物が栽培されているが、主要な基幹作物と

しては、食用甘藷、オクラ、スイートコーン、ゴボウ等があり、近年では新規作物として高菜の栽培も行われている。

これらの品目については、産地としての維持を目標に推進を図る。また、食用甘藷については、産地交付金を活用してトンネル栽培への転換を図るとともに、現行（R4）の作付面積約 43.0ha の維持を目標に、農家所得の向上を図る。

また、水田の高度利用の観点から地域振興作物のうち水田高度利用作物を 10 品目設定し、飼料作物等の戦略作物との組み合わせの二毛作についても、産地交付金を活用し推進を図る。

【水田高度利用作物（11 品目）】※施設作物は対象外

野菜：ピーマン、キュウリ、オクラ、ニガウリ、スイートコーン、甘藷、生姜、ゴボウ、高菜、かぼちゃ

その他作物：たばこ

その他、水田における果樹の作付状況についてはマンゴー・金柑等が主体となっており、今後も気候及び地域特性を活かし、中晩柑類の拡大と新たな振興品目の検討を行い、産地交付金を活用しながら、水田における高品質な果樹栽培の積極的な振興を図る。

5 作物ごとの作付予定面積等

～

8 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

※ 農業再生協議会の構成員一覧（会員名簿）を添付してください。

5 作物ごとの作付予定面積等

(単位:ha)

作物等	前年度作付面積等		当年度の作付予定面積等		令和8年度の作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	523.9	0.0	505.9	0	502.6	0
備蓄米	0.0	0.0	0	0	0	0
飼料用米	33.3	0.0	35.2		36.5	36.5
米粉用米	0.4	0.0	0.4		0.4	0.4
新市場開拓用米	0.0	0.0	0	0	0	0
WCS用稲	392.7	0.0	406.5	0	408.5	0
加工用米	67.4	36.4	66.2	0	67.5	0
麦	0.0	0.0	0.03	0.03	0.1	0.1
大豆	0.0	0.0	0.1	0.03	0.1	0.1
飼料作物	594.6	434.9	600.9	486.1	603.4	489.1
・子実用とうもろこし	0.0	0.0	0	0	0	0
そば	1.8	1.6	2.3	2.3	2.5	2.5
なたね	0.0	0.0	0	0	0	0
地力増進作物	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1
高収益作物	142.8	24.3	143.4	18.8	145.2	19.3
・野菜	113.0	24.3	113.3	18.8	114.1	19.3
・花き・花木	1.9	0	1.9	0	1.9	0
・果樹	28.0	0	28.2	0	29.2	0
・その他の高収益作物	0	0	0	0	0	0
その他	0.9	0	1.5	0	2	0
畑地化	0	0	0	0	0	0

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）	目標値
1	飼料用米	飼料用米 生産性向上加算 （基幹）	取組面積（ha）	（5年度）31.9	（8年度）29.0
2	加工用米	加工用米 生産性向上助成 （基幹・二毛作）	取組面積（ha）	（5年度）65.5	（8年度）80.0
3	食用甘藷（トンネル栽培）	作期転換助成 （基幹）	取組面積（ha）	（5年度）36.4	（8年度）60.0
4	野菜：ピーマン、キュウリ、オクラ、ニ ガウリ、スイートコーン、甘藷、生 姜、ゴボウ、高菜、ホウチャ、 その他作物：たばこ （ただし、施設作物は対象 外）	地域振興作物加算 （基幹）	取組面積（ha）	（5年度）70.9	（8年度）97.0
5、6	野菜：ピーマン、キュウリ、オクラ、ニ ガウリ、スイートコーン、甘藷、生 姜、ゴボウ、高菜、ホウチャ、 その他作物：たばこ（ただ し、施設作物は対象外）	水田高度利用加算 （二毛作）	取組面積（ha）	（5年度）22.8	（8年度）48.0
7	野菜、花き・花木、果樹、 その他作物（ただし、施設 作物は対象外）	高収益作物助成 （基幹）	取組面積（ha）	（5年度）89.8	（8年度）117.0
8	そば	そば二毛作助成 （二毛作）	取組面積（ha）	（5年度）1.6	（8年度）3.6
9	そば・なたね	そば・なたね助成 （基幹）	取組面積（ha）	（5年度）0.2	（8年度）1.0
10	地力増進作物	地力増進作物助成 （基幹）	取組面積（ha）	（5年度）0.1	（8年度）1.3

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の概要

都道府:宮崎県

協議会名:串間市農業再生協議会

整理 番号	使 途 ※1	作 期 等 ※2	単 価 (円/10a)	対 象 作 物 ※3	取 組 要 件 等 ※4
1	飼料用米生産性向上加算(基幹)	1	10,000	飼料用米	生産性の向上要件等
2	加工用米生産性向上助成(基幹)	1	10,000	加工用米	生産性の向上要件等
2	加工用米生産性向上助成(二毛作)	2	10,000	加工用米	生産性の向上要件等
3	作期転換助成(基幹)	1	15,000	食用甘藷(トンネル栽培)	作付した面積に応じて助成等
4	地域振興作物加算(基幹)	1	25,000	野菜:ピーマン、キュウリ、オクラ、ニガウリ、 スイートコーン、甘藷、生姜、ゴボウ、 高菜、カボチャ その他作物:たばこ (施設作物は対象外)	作付した面積に応じて助成等
5、6	水田高度利用加算(二毛作)	2	25,000	野菜:ピーマン、キュウリ、オクラ、ニガウリ、 スイートコーン、甘藷、生姜、ゴボウ、 高菜、カボチャ その他作物:たばこ (施設作物は対象外)	主食用米水稻と対象作物との組み合わせ等
			5,000		戦略作物と対象作物との組み合わせ等
7	高収益作物助成(基幹)	1	10,000	野菜、花き・花木、果樹、、その他作物	作付した面積に応じて助成等

8	そば二毛作助成(二毛作)	2	12,000	そば	播種前契約等
9	そば・なたね助成(基幹)	1	20,000	そば・なたね	播種前契約等
10	地力増進作物助成(基幹)	1	20,000	地力増進作物	水稻作付面積の前年度からの減少分と対象作物作付面積の前年度からの増加分のどちらか小さい方の面積に応じて助成等

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください。

ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。

なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。

※2 「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。

※3 産地交付金の活用方法の明細(個票)の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。

※4 産地交付金の活用方法の明細(個票)の具体的要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。